



UmuSun *lab.*

目指すのは「株式会社沖縄県」



UmuSun lab.

それは自律共創の精神で、県民一人一人がワクワクしながら育んでいく「新しい沖縄の在り方」。

沖縄のさまざまな社会課題をビジネスの力で解決

しながら、「ありのままでいいよ」「ありがとう」「分かち合おうね」の言葉に溢れたあたたかい社会を創造していきます。

企業の枠やセクターを超え、県民も巻き込み、

世界に誇れる沖縄らしい「幸せの経済と社会」をデザインしよう。

目指すのは「株式会社沖縄県」



UmuSun *lab.*

やっていることは

- 「人」づくり
- 「事業」づくり
- 「仕組み」づくり

ソーシャルビジネスの創出

沖縄で育てるソーシャルビジネスのエコシステム

ソーシャルビジネスアカデミー
(2022～)

沖縄県スタートアップ支援事業
(2023～)

社会的インパクト投資
(2024～)



カリーファンド
Karry Impact & Innovation Fund



STEP 1



タネまき

STEP 2



タネから発芽

STEP 3



芽から苗へ

STEP 4



苗から成木へ

STEP 5



果実の収穫

- ・ビジネスアイデア
- ・社会起業家のタネ

- ・ソーシャルコンセプト
- ・ビジネスプラン

- ・スタートアップ
- ・新規事業創出

- ・事業推進
- ・ソーシャルインパクト

- ・収益化
- ・Exit (IPO / M&A…)

うむさんラボの社会課題解決事業

シングルマザー向け
就業プロジェクト
(2021～)

シングルマザーの
ピアサポートコミュニティ
(2024～)

多様な人材の
活躍促進モデル事業
(2024～)

 GOOD DESIGN AWARD 2021



【2021～】

約**20**名が就業

STAND UP!
MOTHER
O K I N A W A

【2024～】

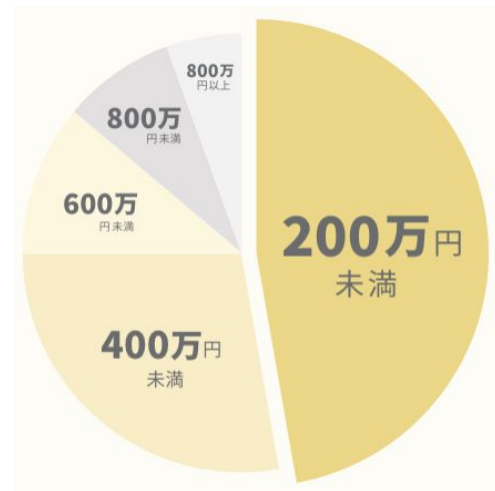
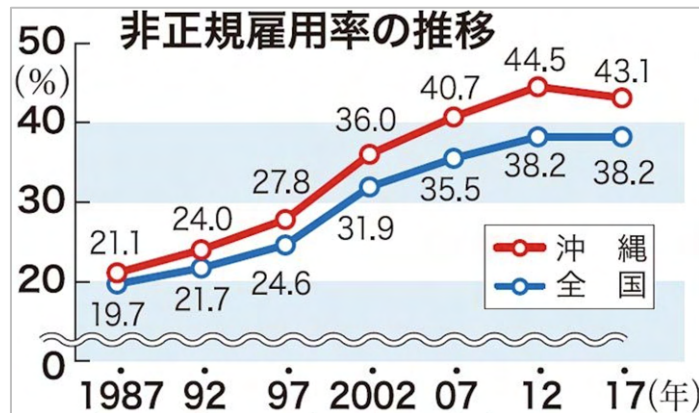
約**50**名が参加



【2024～】

約**50**名が参加

解決したい社会課題 ～沖縄の就労環境～



【正規雇用率】

- ・沖縄の正規雇用率は**全国最下位**
- ・非正規労働者は25万人超(43%)

【平均年収】

- ・沖縄の平均年収は**全国最下位**
- ・年収200万円未満の人が約50%

～沖縄の子どもたちを取り巻く環境～

	沖縄	全国	順位
子どもの貧困率	29.9%	13.9%	1位
1人親世帯の貧困率	58.9%	50.8%	-
離婚率(人口千人あたり)	2.44件	1.70件	1位
10代の出産割合	2.4%	1.0%	1位
高校進学率	97.4%	98.8%	47位
高校中退率	2.0%	1.3%	47位
若年無業者率(ニート率)	4.6%	2.1%	-

シングルマザー、不登校、ニート、発達障がい など、

「社会的マイノリティ」

特に、負のスパイラルから抜け出すことが困難・・・

親の問題が子どもたちに影響を及ぼす

「負の連鎖」

大切にしていること

一時的な支援 ではなく 継続的な活動 に向けて

一方的な施し ではなく お互いの成長 に向けて



「魚をあげる」 のではなく 「釣りを教える」

シングルマザー向け 就業プロジェクト

シングルマザーを支援

シングルマザーのための就業・協働プロジェクト「MOM FOR STAR（ママ フォー スター）」。「学ぶ」「働く」「つながる」の三つの活動を通して、未経験のシングルマザーがスキルを習得し、ウェブ業界で活躍できるまでをサポートする取り組みだ。IT企業「レキサス」（うるま市）と「フオーデジット」（東京）、ひとり親やその子どもたちを支援する当事者団体のしん

MOM FOR STAR スキル習得で就労へ

ぐるまさあず・ふおーらむ沖縄の3者が連携する。

「子どもの貧困」をテーマにした2020年10月開催の第3回OSPカンファレンスでのつながりをきっかけに、同プロジェクトは21年4月から始まった。

レキサスがシングルマザーを雇用して業務支援し、フオーデジットがウェブスキル研修や実践機会を提供する。加えて、しんぐるまざあず・ふおーらむ沖縄が、メンタルケア、生活のサポートなどをする。

プロジェクトを通して、シングルマザーがワーキングプアを脱却し、自分らしい働き方や生き方ができる社会の実現を目指す。

レキサスの山川伸夫さんは「プロジェクトは施しではなく先行投資だ。ビジネスとして利益が見込めるから、費用も時間も割いている。皆さん一人一人の可能性を信じている。将来的にはひとり親であることがハンデいでなくなり、明るい希望を見つけ出せるプロジェクトにしたい」と展望を語った。

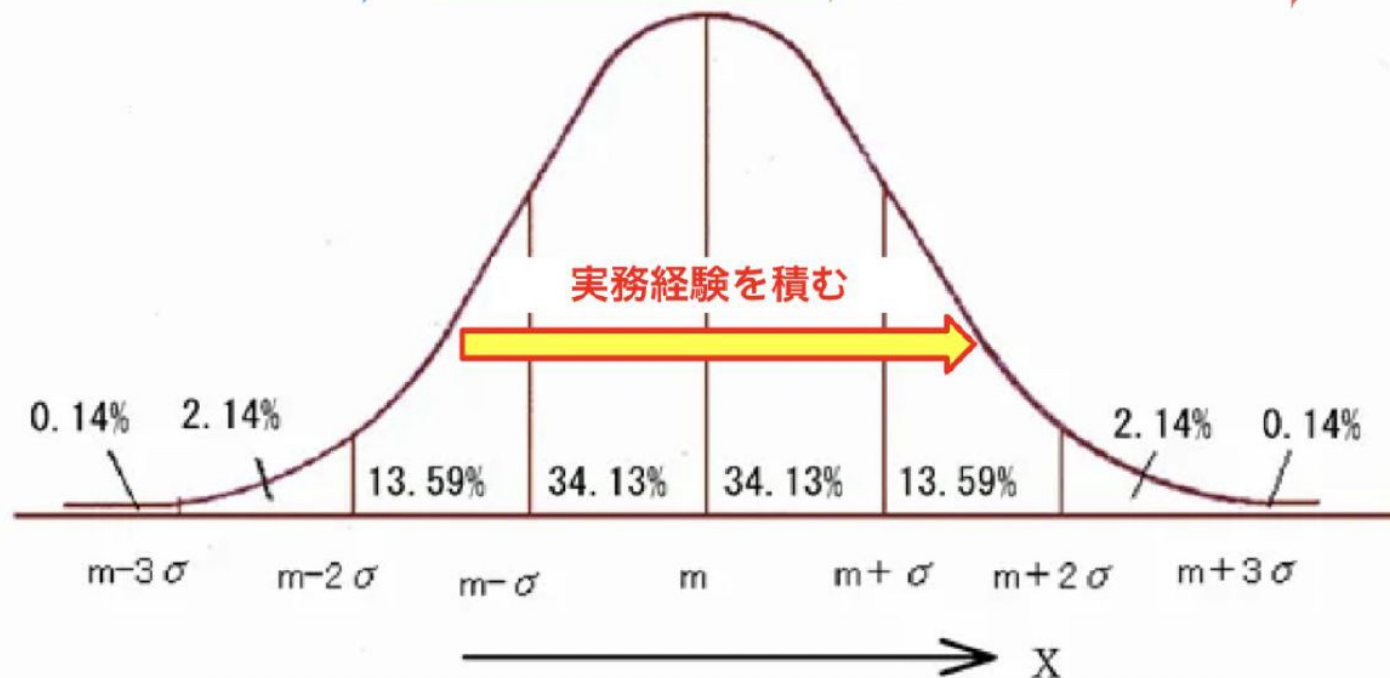


ウェブデザインの研修を受けるMOM FOR STARの参加者ら（提供）

働く準備を整える

基礎スキルを習得する

専門スキルを習得する



対象者の状況に合わせて育成することが必要

シングルマザーのピアサポート・コミュニティ



沖縄で育てるソーシャルビジネスのエコシステム

ソーシャルビジネスアカデミー
(2022～)

沖縄県スタートアップ支援事業
(2023～)

社会的インパクト投資
(2024～)



STEP 1



タネまき

STEP 2



タネから発芽

STEP 3



芽から苗へ

STEP 4



苗から成木へ

STEP 5



果実の収穫

- ・ビジネスアイデア
- ・社会起業家のタネ

- ・ソーシャルコンセプト
- ・ビジネスプラン

- ・スタートアップ
- ・新規事業創出

- ・事業推進
- ・ソーシャルインパクト

- ・収益化
- ・Exit (IPO / M&A…)

創業支援

創業相談センター
うむさん創業アカデミー

(2023年度: 11組、2024年度: 26組)

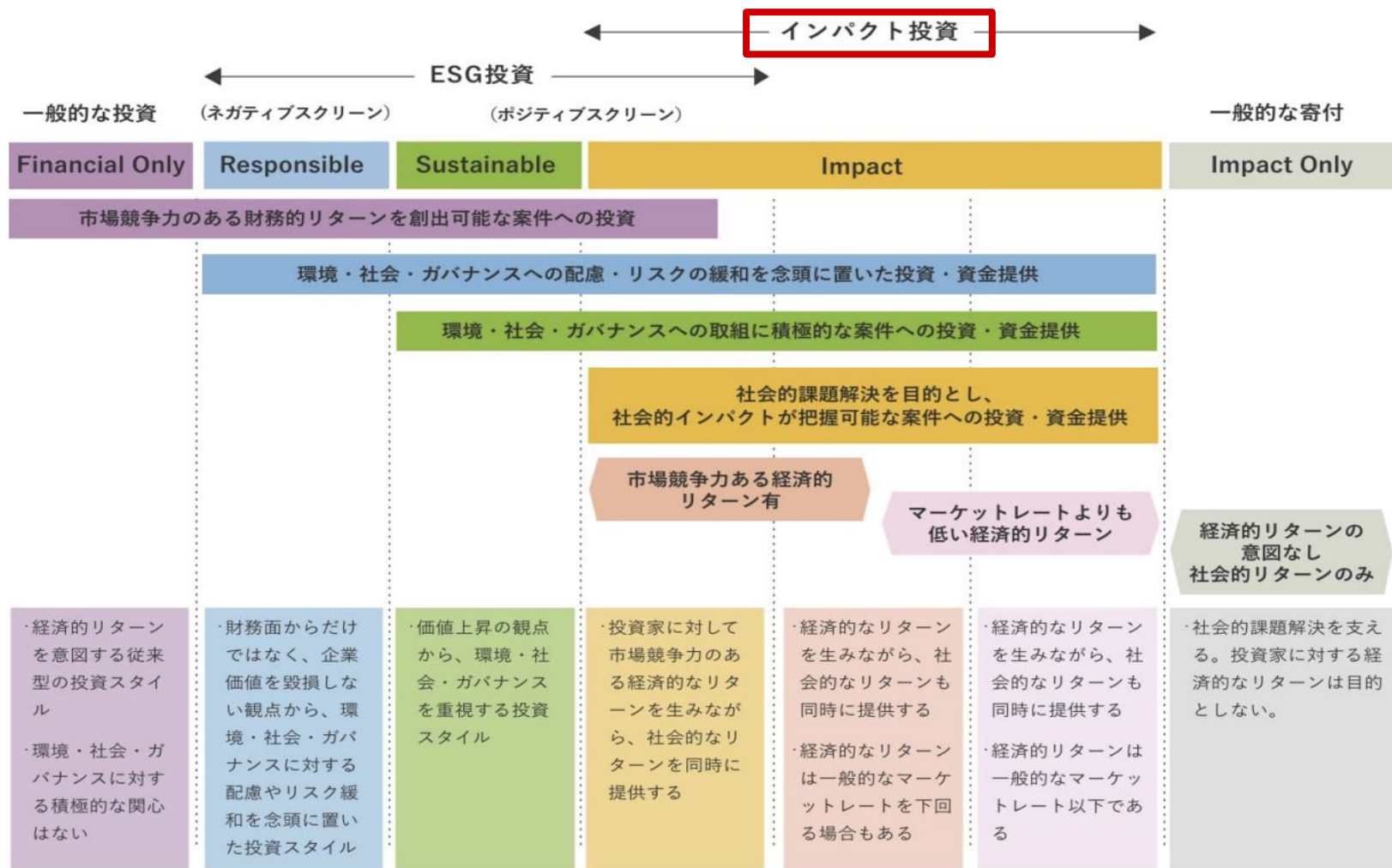
起業支援補助金

最大200万円の補助
補助率50%

(2023年度: 11組、2024年度: 6組)



社会的インパクト投資





カリーファンド

Karry Impact & Innovation Fund

カリーインパクト & イノベーション 1号投資事業有限責任組合

沖縄を取り巻く社会課題を
ビジネスの仕組みで解決しようとする企業や
社会価値の向上又は創造を目指す事業に投資することで、
経済的リターンと社会課題の解決（インパクト創出）の両立を目指す、
沖縄初の「インパクト投資ファンド」です。

投資総額は1,75億円で、株式への出資を基本投資条件として
1案件あたり500万～2,000万円を投資します。

パートナー 28 (沖縄県内 17・沖縄以外 11)

(50音順、敬称略)



麻生 要一

浦崎 真作

大塚 泰造

大西 克典

加藤 慎一郎

高橋 伸彰

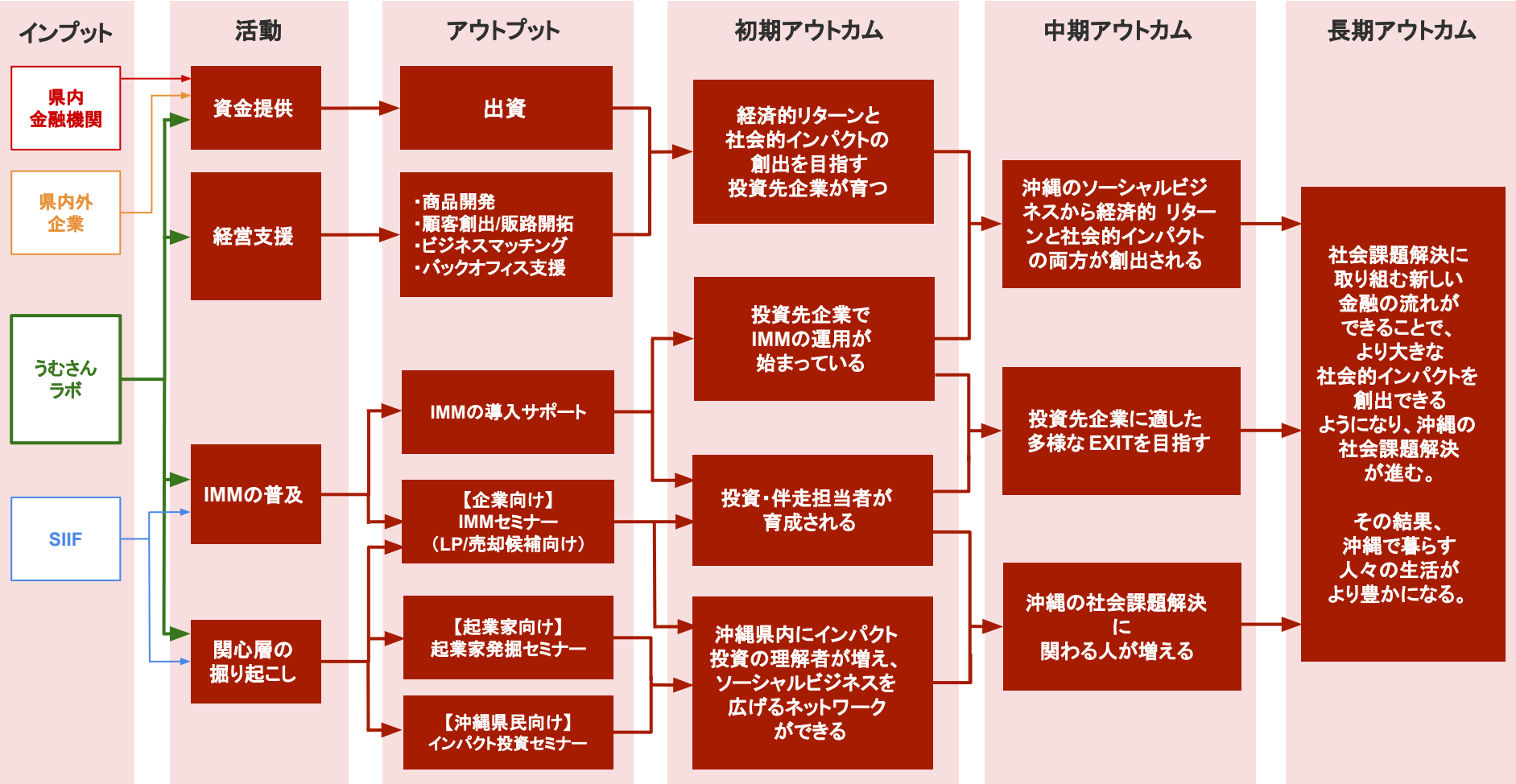
田中 邦裕

照沼 大

比屋根 隆

福地 一仁 他

■ カリーファンドのロジックモデル



■ カリーファンドの投資先

投資先	会社名	投資時期	事業概要
	株式会社 WALLTECH	2024/5/31	廃棄される衣料品と農業フィルムをアップサイクルした繊維パネルとアート壁の製造・販売
	Curelabo 株式会社	2024/8/21	植物残渣を原料としたサステナブルな糸や生地等の製造・販売
	株式会社 フルステム	2024/8/30	再生医療を身近にする、大量自動細胞培養装置の開発・販売および培養受託サービスの提供
	琉球フットボール クラブ株式会社	2024/9/30	沖縄市を中心とする沖縄県全県をホームタウンとする、Jリーグに加盟するプロサッカークラブ

地域エコシステムの構築

沖縄みらい地図アクション

OkINAWA FuTuRE MaP ActiON!

沖縄みらい地図アクション

OkINAWA
FUTURE
Map
Action!

沖縄みらい地図アクション

テーマ こどもの貧困

支援側の
課題

県民性

戦争の
影響

当事者と
関係者

行政側の
課題

テーマ 起業支援

OkINAWA
FUTURE
Map
Action!

沖縄みらい地図アクション

島国の
特徴

地域の
課題

【Theory of Problem】

沖縄全体として地域経済の脆弱性やイノベーション不足が課題となっている。資金や政策がハード面に偏り、社会性の高いソフト面への取り組みに対する優先度が低い。また、企業や団体の自律経営意識が低く、組織基盤の弱さが中長期的成長を妨げている。さらに、セクター内外での競争や連携不足が相互協力の阻害要因となり、沖縄全体の発展を難しくしている。

【Theory of Change】

沖縄らしい自律共創型社会「株式会社沖縄県」の構築
～豊かさを分かち合える、遅くして優しい経済の循環を生み出す～

セクターや役割を超えて、「ゆいという※」の心でお互いに尊敬し合い、協力し合いながら、それぞれが沖縄の未来のために自律的に活動し、沖縄全体で豊かさを分かち合える社会になる。

【活動とアウトプット】

沖縄をより豊かにする新たな「事業」の創出

- ソーシャルビジネスアカデミー
- 県内企業向け経営伴走サポート
- インパクトファンドの組成・運営

事業創出にチャレンジする「人財」の育成

- 社会起業家育成プログラム
- ミチシルベ&ゆいという教育

持続可能な「仕組み」としてのエコシステム構築

- コレクティブな取組の事例づくり
- 自律共創の環境構築とコミュニティ形成

【初期アウトカム】 2020～2023

- ソーシャルビジネスの考え方と取り組みを沖縄に広める。
- 経営体制の強化に取り組もうとする県内中小企業が増える。

- 沖縄の社会課題に対して、ソーシャルビジネスでチャレンジする社会起業家を育てる。

- 学生(若者)に対して、ソーシャルアントレプレナーシップ教育を広める。

- うむラボ自ら、セクターを超えたパートナーシップで社会課題の解決を目指すソーシャルビジネスの事例を創る。
- セクター、役割、世代を超えて交流する場ができる。

【中期アウトカム】 2024～2026

- 沖縄発のソーシャルビジネスの成長事例が生まれ、ロールモデルとなる。
- 自律的な経営体制を整備した県内中小企業が増える。

- 沖縄で社会起業家のロールモデルができ、様々な社会課題の領域に対して関心を持ってアクションする人が増える。
- 社会での自分の関心と役割をミチシルベとして見つけて行動する若者が増える。

- 沖縄の様々な社会課題に対して、コレクティブインパクトを創出する体制ができ、成果が「見える化」している。
- 単なる交流の場ではなく、社会起業家や経営者たちが学び合い、つながるコミュニティができる。

【長期アウトカム】 2027～2030

- 沖縄をより豊かにするソーシャルビジネスが増加し、インパクトが拡大する。
- 県内中小企業の経営状況がよくなり、社員の暮らしも向上する。

- 沖縄から社会起業家が増え、様々な社会課題に対してビジネスでチャレンジする人が増える。
- 沖縄の未来を自ら創る主体性をもった若者が増える。

- より難しいテーマに対しても経営資源が集まるような、相互協力・支援の体制ができる。
- セクターや役割を超えて、沖縄の様々な社会課題を解決するために行動するコミュニティ&プラットフォームができる。
- 「ゆいという」の価値観を体感できる環境や場所ができる。

【最終ゴール】

「株式会社沖縄県」の実現

沖縄らしい自律共創型社会の構築
(豊かさを分かち合える、遅くして優しい経済の循環を生み出す)

セクターや役割を超えて、「ゆいという※」の心でお互いに尊敬し合い、協力し合いながら、それぞれが沖縄の未来のために主体的に活動し、沖縄全体で豊かさを分かち合える社会になる。

【インパクト指標】

事業

ソーシャルビジネスの創出数

ソーシャルビジネスの自走数
(自律的に継続できる事業数)

人財

社会起業家・経営者の輩出数

共創コミュニティに参画する
社会起業家・経営者の数

仕組み

自らのソーシャルビジネス事例

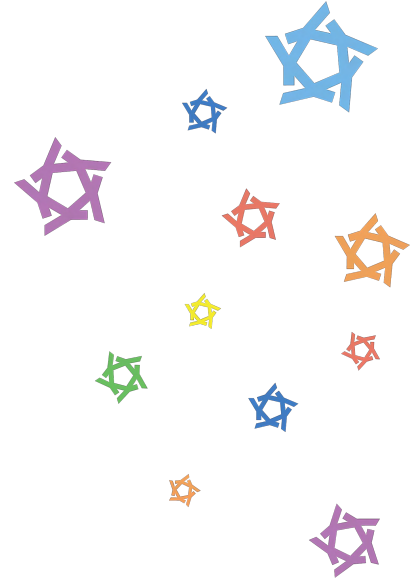
共創コミュニティパートナー数

取り組んだ社会課題のテーマと
沖縄への社会的インパクト

※『ゆいという』とは、「ゆいまーる」という沖縄に古くから受け継がれてきた相互扶助の精神と、「十人十色」という四字熟語を掛け合わせて創った言葉。人それぞれ違う個性を持っていて、お互いの強みを活かし合い、弱みを補い合うことで、社会をより豊かにすることができるという、うむさんラボが大切にしている価値観。

みんなで「株式会社沖縄県」を共創体感する
カンファレンス&フェスティバル

ミチシルベ



開催日：2025年2月7日（金）・8日（土）

会場：沖縄国際大学キャンパス

ミチシルベ2025の共創コミュニティ（県外）



北海道 L47(えぞ財団)
NoMaps
道雪解議

京都 Community Based Economy
京都流議定書
BEYOND

秋田 森山ビレッジ

広島 観光人クエスト
ピースダイアログ

福島 一般社団法人 Nomaラボ

宮崎 こゆ財団

長野 Local Innovation Initiatives

鹿児島 薩摩会議

全国 ENJIN(ボーダレス・ジャパン)
ZEBRAHOOD (Zebras and **Company**)
POTLUCK YAESU
ミラツク(NPO法人ミラツク)
esse-sense(株式会社エッセンス)
IMPACT SHIFT

九州 ONE KYUSHU サミット

海外 Just Be Capital(バンクーバー)

ミチシルベ2025の共創コミュニティ（県内）と後援



<沖縄県内共創コミュニティ>

- KOZAROCKS
- Lagoon KOZA / Lagoon NAHA
- OIST Innovation
- LEAPDAY
- HAVE A GOOD DAY
- ココノバ
- みらいファンド沖縄
- Global Shapers Community Okinawa
- 一般社団法人世界若者ウチナアンチュ連合会 (WYUA)
- 一般社団法人沖縄県情報産業協会 (IIA)
- G.O.K.U (げんたと沖縄を語る宴)
- OKINAWA SDGs PROJECT
- おきなわスタートアップ・エコシステム・コンソーシアム

<後援>

- 沖縄国際大学
- 沖縄国際大学後援会
- 沖縄国際大学校友会
- 沖縄県
- 那覇市
- 名護市
- 公益財団法人 沖縄県産業振興公社
- 沖縄経済同友会
- 一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センター (ISCO)
- 一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー (OCVB)

ミチシルベ2025

参加者数：約1,000人

ミチシルベ：594人
高校生マイプロ：230人
スタッフ：53人
アーティスト：100人





セッション：20+
スピーカー：50+





プレゼン | アワード





歌 | 踊り | 心





ミチシルベ マルシェ



クリエイティブ



ミチシルベ2030のイメージ

世界の架け橋となる「万国津梁の祭典」として
県外や海外からも多くの沖縄・日本ファンが集まる
カンファレンス&フェスティバルになっている

ミチシルベを通じて目指していること

「株式会社沖縄県」のマインドの醸成と
国内外コミュニティとの繋がりが育まれていく。

調和・平和を軸にした地域発展の
「人・事業・仕組みづくり」の学びと繋がりが醸成され、

一人ひとりが
世界における沖縄や日本（日本人）の役割を考え、
自分事になっていく。

2030年までに「沖縄県民ファンド（仮）」を立ち上げる

県民一人ひとりが毎月100円を寄付する。

それを基金（志金）にして

社会課題の解決や社会価値の向上・創造（インパクト）の両立を目指す

社会起業家や事業にインパクト投資を行う。

経済的リターンは基金に戻り、次の社会起業家へ（循環）。

年1回の県民株主総会で、この1年間に創出されたインパクトを共有し、

チャレンジしている社会起業家を応援する文化を育む。

いつか、補助金だけに頼らず

県民ファンドで思いも資金も循環している

「株式会社沖縄県」が生まれている。



【Theory of Problem】

沖縄全体として地域経済の脆弱性やイノベーション不足が課題となっている。資金や政策がハード面に偏り、社会性の高いソフト面への取り組みに対する優先度が低い。また、企業や団体の自律経営意識が低く、組織基盤の弱さが中長期的成長を妨げている。さらに、セクター内外での競争や連携不足が相互協力の阻害要因となり、沖縄全体の発展を難しくしている。

【Theory of Change】

沖縄らしい自律共創型社会「株式会社沖縄県」の構築

～豊かさを分かち合える、遅くして優しい経済の循環を生み出す～

セクターや役割を超えて、「ゆいという※」の心でお互いに尊敬し合い、協力し合いながら、それぞれが沖縄の未来のために自律的に活動し、沖縄全体で豊かさを分かち合える社会になる。

【活動とアウトプット】

沖縄をより豊かにする新たな「事業」の創出

- ソーシャルビジネスアカデミー
- 県内企業向け経営伴走サポート
- インパクトファンドの組成・運営

事業創出にチャレンジする「人財」の育成

- 社会起業家育成プログラム
- ミチシルベ&ゆいという教育

持続可能な「仕組み」としてのエコシステム構築

- コレクティブな取組の事例づくり
- 自律共創の環境構築とコミュニティ形成

【初期アウトカム】

2020～2023

- ソーシャルビジネスの考え方と取り組みを沖縄に広める。
- 経営体制の強化に取り組もうとする県内中小企業が増える。

- 沖縄の社会課題に対して、ソーシャルビジネスでチャレンジする社会起業家を育てる。

- 学生(若者)に対して、ソーシャルアントレプレナーシップ教育を広める。

- うむラボ自ら、セクターを超えたパートナーシップで社会課題の解決を目指すソーシャルビジネスの事例を創る。
- セクター、役割、世代を超えて交流する場ができる。

【中期アウトカム】

2024～2026

- 沖縄発のソーシャルビジネスの成長事例が生まれ、ロールモデルとなる。
- 自律的な経営体制を整備した県内中小企業が増える。

- 沖縄で社会起業家のロールモデルができ、様々な社会課題の領域に対して関心を持ってアクションする人が増える。
- 社会での自分の関心と役割をミチシルベとして見つけて行動する若者が増える。

- 沖縄の様々な社会課題に対して、コレクティブインパクトを創出する体制ができ、成果が「見える化」している。
- 単なる交流の場ではなく、社会起業家や経営者たちが学び合い、つながるコミュニティができる。

【長期アウトカム】

2027～2030

- 沖縄をより豊かにするソーシャルビジネスが増加し、インパクトが拡大する。
- 県内中小企業の経営状況がよくなり、社員の暮らしも向上する。

- 沖縄から社会起業家が増え、様々な社会課題に対してビジネスでチャレンジする人が増える。
- 沖縄の未来を自ら創る主体性をもった若者が増える。

- より難しいテーマに対しても経営資源が集まるような、相互協力・支援の体制ができる。
- セクターや役割を超えて、沖縄の様々な社会課題を解決するために行動するコミュニティ&プラットフォームができる。
- 「ゆいという」の価値観を体感できる環境や場所ができる。

【最終ゴール】

「株式会社沖縄県」の実現

沖縄らしい自律共創型社会の構築

(豊かさを分かち合える、遅くして優しい経済の循環を生み出す)

セクターや役割を超えて、「ゆいという※」の心でお互いに尊敬し合い、協力し合いながら、それぞれが沖縄の未来のために主体的に活動し、沖縄全体で豊かさを分かち合える社会になる。

【インパクト指標】

事業

ソーシャルビジネスの創出数

ソーシャルビジネスの自走数
(自律的に継続できる事業数)

人財

社会起業家・経営者の輩出数

共創コミュニティに参画する
社会起業家・経営者の数

仕組み

自らのソーシャルビジネス事例

共創コミュニティパートナー数

取り組んだ社会課題のテーマと
沖縄への社会的インパクト

※『ゆいという』とは、「ゆいまーる」という沖縄に古くから受け継がれてきた相互扶助の精神と、「十人十色」という四字熟語を掛け合わせて創った言葉。人それぞれ違う個性を持っていて、お互いの強みを活かし合い、弱みを補い合うことで、社会をより豊かにすることができるという、うむさんラボが大切にしている価値観。

うむさんラボが目指す沖縄のあり方（Theory of Change）

沖縄らしい自律共創型社会「株式会社沖縄県」の構築

～豊かさを分かち合える、逞しくて優しい経済の循環を生み出す～



セクターや役割や世代を超えて、
「**ゆいという**※」の心でお互いに尊敬し合い、協力し合いながら、

それぞれが沖縄の未来のために主体的に活動し、
沖縄全体で豊かさを分かち合える社会になる。

※『**ゆいという**』とは、

「ゆいまーる」という沖縄に古くから受け継がれてきた相互扶助の精神と、「十人十色」という四字熟語を掛け合わせて創った言葉。人それぞれ持っている個性や特性などの違いをお互いに尊重し、強みを活かし合い、弱みを補い合うことで、社会をより豊かにすることができるという、うむさんラボが大切にしている価値観。



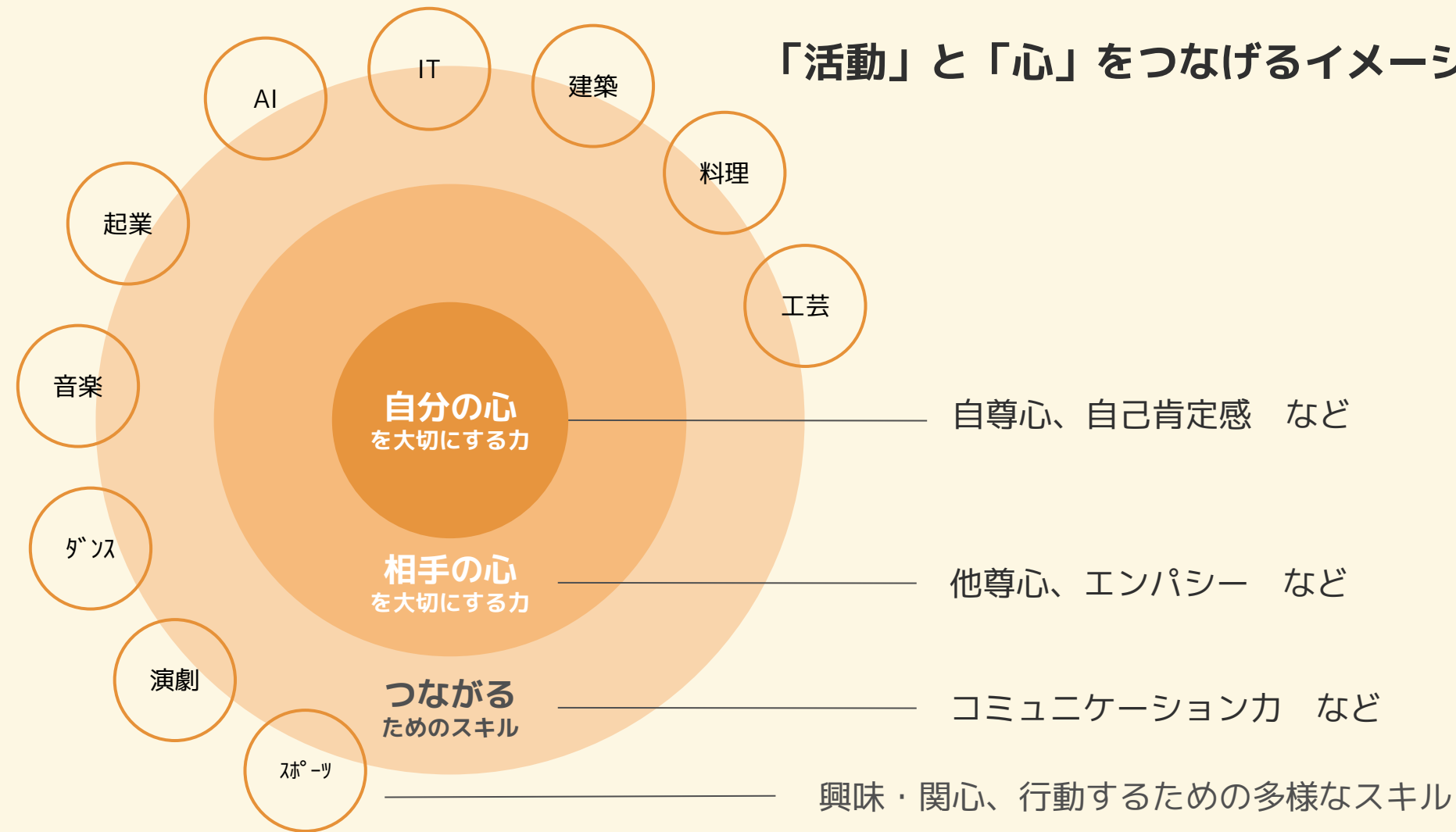
ゆいといろ

「ゆいまーる」×「十人十色」

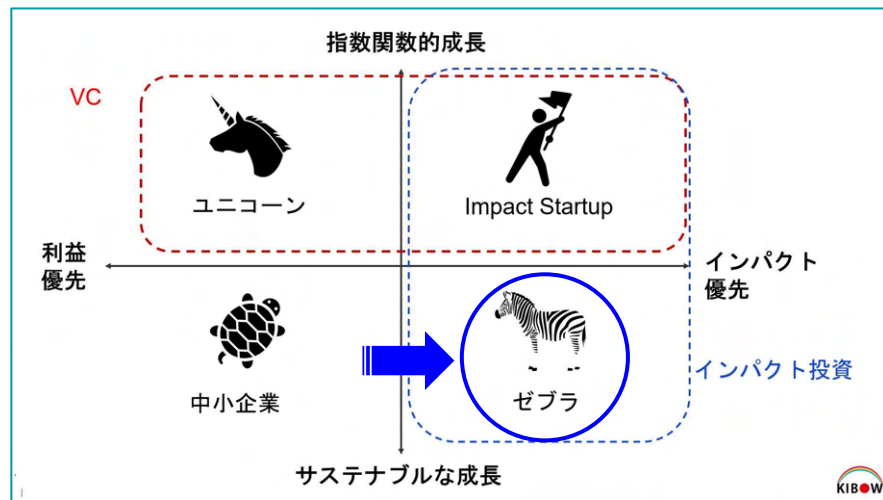
人それぞれ違う個性を持っている。
みんな違って、みんないい。
自分らしく、ありのままでいい。

ひとりではできないことがあったとしても、
お互いに足りないところを補い合うことで、
社会をより豊かにすることができる。

「活動」と「心」をつなげるイメージ



ゆいというカンパニーズ（「株式会社沖縄県」を共創する仲間）



ゆいというカンパニーズ（仮）とは

沖縄版ローカル・ゼブラ企業とそのコミュニティ

組織形態や規模の大小を問わず、「ゆいという※」「自律共創」の精神で、私（人＝経営者、社員）を起点に、組織・地域の繋がりを育みながら進化・発展していくことを目指す企業とそのコミュニティ。

ゆいというカンパニーズは、ビジネスを通じて地域課題解決を図り、多様な関係者と協業しながら新たに価値創造や革新的な技術・サービスを活用することで、社会的インパクト（事業活動や投資によって生み出される社会的・環境的変化）を生み出しながら、収益の確保に取り組む。あるいはそれを志す企業や応援・サポート・共創する企業全体。

※『ゆいという』とは、

「ゆいまーる」という沖縄に古くから受け継がれてきた相互扶助の精神と、「十人十色」という四字熟語を掛け合わせて創った言葉。人それぞれ持っている個性や特性などの違いをお互いに尊重し、強みを活かし合い、弱みを補い合うことで、社会をより豊かにすることができるという、うむさんラボが大切にしている価値観。

目指すのは「株式会社沖縄県」



UmuSun lab.

それは自律共創の精神で、県民一人一人がワクワクしながら育んでいく「新しい沖縄の在り方」。

沖縄のさまざまな社会課題をビジネスの力で解決

しながら、「ありのままでいいよ」「ありがとう」「分かち合おうね」の言葉に溢れたあたたかい社会を創造していきます。

企業の枠やセクターを超え、県民も巻き込み、

世界に誇れる沖縄らしい「幸せの経済と社会」をデザインしよう。